

2年「障がい者サッカー」講演・体験授業（オリ・パラ教育）



2/4(火) オリンピック・パラリンピック教育実施校認定校として、2年生で「障がい者サッカー」の体験授業を行いました。

盲目の方のブラインドサッカー「FC コレチーボ静岡」の選手と、手足の一部を失った方のアンプティサッカー「ガネーシャ静岡」の選手と、団体の先生や代表の方が来校して下さり、それぞれの選手から、お話を聞くことができました。



三津谷選手



若杉選手

突然の事故で片脚を失った話、そこから10年以上イライラして引きこもっていた話、ご家族に支えられアンプティサッカーに出会い、ワールドカップに出場するほどの選手になったこと（若杉選手）

眼の病気で、徐々に見えなくなった話、夜暗くなるのが怖かった話、やはり引きこもっていた話、今は仕事をしているけど普段困ること、ブラインドサッカーに出会って変わったこと（三津谷選手）



「日常が非日常になる」という言葉が印象的でした。

クラッチという杖を使って、素早く走るアンプティの選手が、自在にドリブルしたりリフティングする姿に、休憩時には生徒たちが自然と集まっていきました。

他の障がい者サッカーもDVDを観て不自由な中で必死に、楽しそうに頑張る姿を学びました。



実際にアイマスクをして、音と声を頼りにボールを運ぶ体験、クラッチを使って、走ったり蹴ったりする体験もさせて頂きました。お忙しい中、貴重なお話、体験の時間を頂き、ありがとうございました。

来年度、この学年は、実際にパラリンピックを観に行くことになっています。